

○はじめに

母校で3週間教育実習を行った。中学1年生の国語を担当し、3クラスに対し8時間授業を行った。

○授業について

教科書とノートを基本に授業を行っている聞き、ワークシートを使用しない授業展開にした。ワークシートはあまり生徒に負担をかけずに多くの情報を載せることが可能であり、時短にもなり便利であると考えていた。しかし、扱う教材によっては話の流れがわかってしまうため好ましくない場合もあることを学んだ。今回は小説を扱ったため、次の流れが読めてしまうワークシートは使用しなかった。今までの模擬授業ではワークシートを軸にした授業を構成していたため、この点で少し苦勞した。ワークシートに載せている文量をそのまま板書にすると生徒の負担がかなり大きくなってしまい、ただ書き写すだけの授業になってしまうので注意が必要である。中学1年生であれば黒板1枚分が限界であると学んだ。加えて、話す時間と書く時間をはっきり提示する重要性を知った。今何をやる時間なのかを提示しないと、書き写すことに必死で話を聞いていない生徒が出てしまっていた。また、音読と板書だけの単調な授業展開は生徒にとって退屈であり、集中力が続かない。生徒の集中力の持続時間は15分から20分程度なので、50分で授業を構成するというより、15分のワークを3つ行うという構成の方が良いと学んだ。50分をいかに無駄にしないかを考えていたが、休憩時間を入れた方が生徒の集中力維持に効果的であることを知った。

生徒のあて方についても毎回同じではなく、取り組むワークによって変えると効果的であることを学んだ。音読や宿題の答え合わせであれば、座席順でも問題ないが、全員に考えさせたい授業内での問いかけはランダムである必要がある。順番通りだと、自分の番じゃない、と授業に参加しない生徒が出てくる可能性がある。

教育実習において一番苦勞したのが指示である。単純に教室の端から端まで聞こえる声量を出すことも大変だったが、聞く環境を整えるということが難しかった。指示を繰り返したり、板書したりと工夫は行ったが、聞く環境を整えるのが一番であった。これは授業以外においてもとても大切な点であることをこの3週間で学んだ。少しでもぎわついている状態で話をするとその環境が当たり前になってしまうため、話を聞くときは全員が黙って話す人の方を向くというルールをしっかりと守らせることが大切である。特に中学1年生はルールづくり、ルールを守らせる習慣をつけさせる必要がある。学年が上がってからはなかなか身につかないので、中学1年生のうちにこれらを当たり前にしておく必要がある。

#### ○生徒との関わりについて

授業への参加態度は名前を覚えることによって大きく変わることを実感した。顔を覚えることが少し苦手なため、授業見学の際は机間巡視時に話しながら顔と名前を確認したり、休み時間も積極的に話しかけることを心がけた。その結果、全クラスにおいて最終週に席替えがあったのだが、座席表に頼らなくても指名することができた。休み時間や放課後を活かし、生徒とコミュニケーションをとる大切さを身をもって知った。ただ、友だちにならないよう注意しなければならない。あくまで先生と生徒の関係であり、この関係が崩れると授業や学校生活が成り立たないため、仲良くなるに越したことはないのだが、立場を考えて行動する必要がある。

#### ○教員として大切にしていること

素直さとチームプレイの二点が挙げられた。すべてを一人で抱え込むのは厳禁であり、また生徒と先生には相性があるため、自分の担任の生徒であってもほかの先生に指導をお願いするのは当然であるという話を伺った。そのチームプレイのために必要なのが素直さであり、先生が目線で助けてあげたいと思われるような先生であることが大切である。